

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年02月12日

事業所名 放課後等デイサービス クリーむうさぎ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			児童人数、年齢、体の大きさなど当日様子を見ながら1階、2階のスペース確保を都度おこなっている
	2	職員の配置数は適切である	○		特に郊外活動等は基準以上配置実施	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			生活空間、バリアフリー等の必要性は自立への取り組み、安全への意識も含めて利用状況により配慮、取り組んでいる
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		プレイルーム、学習ルーム等、場面により切り替えの場所を作っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	児発管MT資料での指導員協議実施	連絡ノートの作成と皆に周知、把握してもらうための時間確保
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		要望内容に添えるように状況確認。保護者意向と児童の思いを考慮した上で改善に繋げる
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		評価表配布。評価結果を真摯に受けとり改善評価リスト作成。児童の環境スペース優先に改善していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	相談支援、児童発達支援連携強化	評価表の配布やヒアリングより評価結果を確認
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			人員配置、送迎時間など含め適宜人数調整確保(月により変動あり)
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		初回・半年・3か月毎、保護者・相談支援3者面談実施	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SST基本(イラスト活用)・音楽・水泳・郊外活動等	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			児童発達支援計画をベースに支援内容の追加や様式を変更する
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		年2回音楽発表会・リミック開催(自主参加)	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児発管主にチームMT開催(療育前)	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		生活歳時を重視し、イベント活用	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		適時・組み合わせ対応	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	○		段取り、支援中の様子、支援後の情報交換ができるように朝夕と時間確保	
	18	○		朝MT・伝達ノート活用	
	19	○		療育連絡帳・個人記録活用しMT開催	
	20	○		保護者・相談支援面談開催で対応	
関係機関や保護者との連携	21	○		児発管・指導員リーダー参加	
	22	○		相談支援・児童発達支援連携強化	
	23		○		現時点、医療ケアの必要性がある児童なし。今後必要性の可能性もあるため、保護者の連携より主治医との連絡体制を確保する
	24		○		現時点、医療ケアの必要性がある児童なし。今後必要性の可能性もあるため、保護者の連携より主治医との連絡体制を確保する
	25	○		定期的開催(児童指導員を中心に)	
	26	○			充分とは言えず、小学校・支援学校との情報共有化・連携強化(定期的)
	27	○		支援内容の様子を直接見学に行き、確認・情報の共有化を図る	
	28	○		地域の公園を活用	地域住民の子どもとの関わりは少しずつできてきている。各関連事業所への交流は研修での機会を通して行う
	29		○		時間調整、積極的参加を目指す
	30	○			保護者と共有する職員が限定されないために、多方向からの視点でより共有、課題が見つけれられるような割り当て検討
	31		○		
	32	○		契約時重要事項説明をベースに実施	
	33	○		年次・半年毎面談で実施(3か月毎の確認面談も活用)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		療育連絡帳・適時活用	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		課題、必要性を都度検討し、今後支援行う
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		事業所の通信簿を作成配布	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		従業員守秘義務契約の基、遵守徹底(管理者注視)	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域活動参加	信頼性を深め、課題、必要性の検討から今後計画を図る
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		次亜塩素酸水導入(除菌・ウイルス対策徹底)・空気清浄機(加湿機能付)活用	一応定めているが、緊急対応・防犯マニュアル等拡充が必要
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		定期的な訓練の導入。訓練時期予め決定、予定に組み込み
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告帳活用・情報共有化	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		メディア情報配信については強化している	不定期的なため研修機会の定期的参加を目指す
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		今後、児童の状況判断、身体拘束における職員の理解とともに計画に記載追加。事前説明行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。